

<p>会報 第75号</p>	<p>Mt. Iwaki Conservation Association 岩木山を考える</p>	<p>2018年4月27日発行 岩木山を考える会 会長 小堀英憲</p>
--------------------	--	--

竹谷清光さんを偲んで

岩木山を考える会会長 小堀英憲

竹谷さんとは会を通してのお付き合いよりなく、今更ですが、もっと接する機会を持っておけばよかったと後悔しております。それでも強く印象に残っていることがあります。

一つは一昨年(2016年)の10月平川市の志賀坊での観察会の時、ご自分で収穫したキノコで、キノコ汁をふるまう際ガスコンロを忘れて、わざわざ藤代の自宅に取りに戻ってまで私たちに食べさせてくれました。



2/9～10 岩木山写真展で竹谷さんを追悼しました

また、昨年(2017年)の7月スキー場跡地での観察会の時、気温30度の炎天下で私が車の中で待っていると知った竹谷さんは、車の中だと大変だからとこれで木陰の涼しいところで待っていればいいよ、とシートを差し出してくれました。周囲の人への気配り、思いやりはとて私にはマネできません。

長い間お疲れさまでした。ゆっくりお休みくださいと言っても、このようなお人柄の竹谷さんですから、きっと下へ降りてきて私たちの手を引っ張り、背中を押してくれるような気がします。これからも一緒に活動しましょう。お待ちしております…竹谷さん…

工藤龍雄

竹谷さんと知り合ったのは今から10数年前、私が弘前勤労者山岳会に入っていた時です。労山には当会の事務局長をしておられた三浦章男先生がおられ、先生の紹介で岩木山を考える会に参加することにしました。それからは、会の学習会の講習に講師としていた竹谷さんと知り合い、いろいろなことを教えていただきました。特に植物に関する知識は当会の第一人者だと思います。今思うと、彼を失ったことは大変なことだと思います。

竹谷さんとの思い出は書面にかけないほどですが、一番の思い出は、竹谷さん、私、東京の登山仲間の安岡さんと三人で白神山地の日暮の滝に行ったことです。2009年9月初めの事です。前年にも竹谷さんと二人で滝まで奥入瀬川を遡上し、壺の滝、弐の滝、三の滝まで行きましたが、雨で引き返しました。今年こそはと三人で、三の沢、ウズラ石沢出合いを越え、テント場に到着したのは午後3時過ぎでした。そこで一泊し、二日目は朝5時起きで白神山地の最深部にある日暮

の滝を見て、車のところへ戻ったのは午後 6 時過ぎでした。東京の安岡さんはあまりの美しさに感激いっぱいでした。そして白神山地でしか見られない、アオモリマンテマ、ツガルミセバヤなどを見せてくれたのもやっぱり竹谷さんでした。こんな人を失うとは夢にも思いませんでした。本当に残念でなりません。安らかに眠りください。合掌

師匠そして花友竹谷さんを偲んで

花田一雄

竹谷さんとは 10 年前、岩木山を考える会主催の写真展で知合いました。

最初はデジカメが好きな写真好きだと思いましたが、話をしている内に山野草や高山植物に詳しい人で、毎年、花々を追いかけて山野を歩き回っている事を知って意気投合、竹谷さんの友、工藤さんと 3 人で出かける機会が多くなりました。所謂、花観察・撮影の 3 馬鹿トリオの誕生です。トリオとして最初に出かけたのは北限？のウラゲキヌガサソウの自生地探しと撮影でした。とある林道から竹藪を漕いで片道約 8km 歩いて自生地に辿り着いた時の感動は、今でも新鮮に思い出されます。それ以後、3 馬鹿トリオは幾度と無く白神山地、岩木山、津軽半島を主に歩き回り、発見・感動・撮影・食事・反省・失望を繰り返しながら、10 年間付き合いさせていただきました。特に秋のキノコシーズンには、西目屋のマイタケ、ナラタケ採りに勤しみ、身軽な竹谷さんが毎年多くの収穫を楽しみ、喜ぶ姿を思い出します。

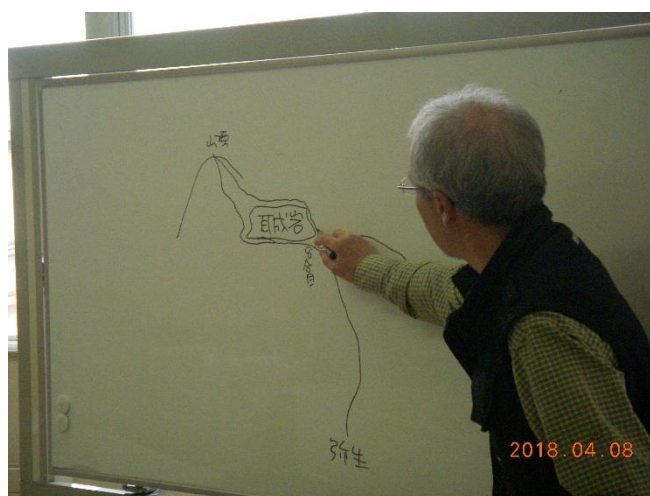
「わ、秋駒さ登ったごとねだじゃ」と言って、ある年の 7 月、2 泊 3 日で早池峰山と秋田駒ヶ岳に同行したのも、ついこの間の様に懐かしく思い出します。

「どうしてらば～」と玄関の戸を開けて、訪ねてくる声が今でも聞こえてきそうです。

亡くなる 2 日前、病院で会ったのが最後でした。合掌

2018 年度総会報告

4 月 8 日(日)弘前市市民参画センターにおいて 21 名(うちオブザーバー 1 名)の出席で今年度総会が行われました。議長に柄沢博之さんを選出。前年度のまとめを竹浪事務局長が提案。質疑では、「赤倉の周回路とは?」「弥生コース 8 合目付近の付け替え道路は?」「26 番観音あたりの崩落」に対して、ホワイトボードで図示して理解を深めました。今年度の活動方針について、小堀会長が提案。各県持ち回りの東北自然保護の集い青森大会に取り組んでいる。11 月 10 日(土)～11 日(日)ブナの里白神館が会場です。白神山地が世界遺



産登録されて 25 周年。又、各県の報告も大会テーマに生かされるようなものにしたい、と。2017 年度活動のまとめ、2018 年度方針(案)、2017 年度収支決算報告、2018 年度予算(案)は採択されました。役員体制について。役員減少の中、新たに金枝壽孝さんが。そして花田一雄さんも加わってくださいます。心強い限りです。よろしくお願ひします。会則改訂では、第4条2)・・・会計がこれまでの2名から1名へ。詳細は総会議案書を参照してください。

熱心な討議の後に、同会場で14名の参加で懇親会を行いました。当会の発足した当時の歩みについてのお話し、百沢のりんご農家の方からは、多くの野生動物が出没している現状。雪形を毎年記録して農作業に生かしていること。また、登山道の刈払いについてなど、貴重なお話を聞くことが出来ました。総会と懇親会を合わせると3時間30分、長時間でしたが、今後にかされる内容でした。

藤原裕貴子 記

【会員の声】

総会案内の返信はがきに寄せられた会員の皆様の声をお届けします。

・例会の案内が予定なのか、確実に行われるのか不明で又は不確かなので、参加するのに躊躇することが多い。

⇒ 年 3 回の会報発行時に講座の細部まで確定できず、予告のみ掲載することがあり、お困りになられたことと思います。講座の都度、報道へのアナウンスをしておりますので、そちらをご確認いただくかお手数ですが事務局までお問い合わせください。

・会報を通して、皆様方の日頃の活動を知ることが出来まして嬉しく思います。会が益々発展されることを期待しております。

・昨年、会報を読ませて頂き、会員皆様の活動のすばらしさに感銘を受けました。大好きな「ミチノココザクラ」が咲き誇る秀峰「岩木山」、永遠であります様にと願っています。

・会報を楽しみにしています。

・会費だけの会員ですが、皆様のご活躍と研究成果を会報で学んでおります。

⇒ 岩木山の現状や課題、岩木山講座の様子などなど・・・会報を充実させて、「岩木山」をより身近に感じて頂けるようにしていきたいと考えています。会報へのご意見もお寄せください。

・岩木山を考える会の役割は永続的なものと考えます。

⇒ 末永いお付き合い、ご支援をよろしくお願いいたします。

・竹谷さんのことを思い出して、ほんとうにさびしくなりました。

・故竹谷さんが話していた竜泊ライン方面の山野草観察会は何時頃催行予定ですか？

⇒ 竹谷さんの不在は寂しいだけでなく、会の痛手です。可能性も含めて、これから検討していきます。

- ・今年も出来るだけ参加したいと思っておりますので、よろしくおねがいたします。
- ・昨年は都合がつかず、参加できませんでした。今年は参加したいと思っています。
- ・津軽もそろそろ春が近づいて来た頃かと思えます。百沢のカタクリの大群落を思い出します。
⇒観察会・写真展などお気軽にご参加ください。今年は東北自然保護のつどい青森大会が開催されますので、こちらにも多数のご参加をお待ちしています。

“応援しています”“会の発展を願っております”“活躍を期待しています”などなど、励ましのお言葉を多数いただきました。ありがとうございました。また、“お任せするばかりで”“何も役に立てなくて”“会費だけの会員…”などのお声がありましたが、活動を温かい眼差しで見守って下さる会員の皆様に感謝申し上げます。これからもご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

第1回岩木山講座 「弥生スキー場跡地観察会」

今年の第1回目講座は、弥生スキー場跡地で行います。この観察会は、弘前市が弥生ネットのバックアップの下で「親子で自然観察会 in 弥生いこいの広場隣接地(リゾート跡地)」として開催しています。当会も協力しているので、私たちも一緒に跡地の回復してきている自然を楽しみます。募集要項は下記の通りです。

日 時 2018年7月1日(日) 10時～12時

募集人員 先着20名

集合場所 弥生いこいの広場駐車場に10時までに集合

持ち物等 長靴・手袋・必要に応じて飲料水

参加費 100円(保険料)

※終了後、弥生ネットから豚汁のサービスがあります(おにぎりをご持参ください)。

申込先 竹浪純(TEL 070-6952-2614)

申込締切日 6月25日(月)

1. 岩木山講座⑤ 「岩木山の噴火のおはなし」

1月27日弘前市みどりの相談所の集会室で、弘前大学地球環境防災学科講師の佐々木実先生を講師にお招きして、岩木山の噴火について講演していただきました。

直前の群馬県の本白根山の噴火という宣伝効果もあり、会場に入りきれず、出入り口付近で数名が着席できない状況でした。(来場者数110名)

私が知りたかったのは、嶽、百沢、長平各地区の住民への影響がどの程度想定されるのかということでしたが、雲仙普賢岳のような火砕流は、溶岩ドームが大きくなり火砕流が発生するまで何か月かかかるので、避難する余裕があること。また、御嶽山や本白根山のような噴石は噴火口の周囲 3 km 位が危険範囲ということで少し安心しました。

それでも活動の拠点は岩木山ですので、油断することなく常に噴火を念頭に置いて活動しなければと思いました。



小堀英憲 記

岩木山の噴火について(2018年1月27日「岩木山講座」講演要旨)

私たちにとって最も身近な火山である岩木山は、日本に111ある活火山の一つであり、50の常時観測火山の一つでもある。本講演では、どのようにして現在の岩木山がつけられたのか、将来どのような噴火を起こす可能性があり、どのような対応が取られているかを解説する。

岩木山は少なくとも35万年前頃から現在の山体を形成する活動が始まっている。主に溶岩流からなる山体を形成した後、20万年前頃に大規模な山体崩壊を起こしている。5万年前頃までには、再び現在に近い高さまで成長した。山頂付近では3万年前～2千年前までの間に5つの溶岩ドームが形成されている。西暦1600年以降には少なくとも4回の噴火が文書記録に残されており、これらはいずれも水蒸気噴火であったと推定される。

岩木山に将来発生する噴火のタイプとして、歴史時代に発生したような水蒸気噴火と、それ以前に発生した溶岩ドームを形成する噴火が想定されている。水蒸気噴火は2014年の御嶽山や2018年の草津白根山と同様な噴火であり、噴石による山頂付近の登山者に対する被害が懸念される。溶岩ドームを形成する噴火は1990-95年に雲仙普賢岳で発生しており、溶岩ドームの崩壊による火砕流の発生、さらに降水時の土石流の発生の可能性が想定され、大規模な場合には居住地域にまで被害が及ぶ可能性がある。これらの噴火によりどのような現象が発生し、どの地域に影響が及ぶかについては、災害予測図(ハザードマップ)が作成されており、県のウェブページで公開されている。

岩木山は現在活動の兆候は見られず、噴火の可能性は大きくないが、水蒸気噴火の場合は目立った前兆現象がなく噴火する場合がある。また、将来マグマの噴出を伴う噴火もありうることから、活火山であることを意識して、いざという時のための心構えを持つておくことが望ましい。

第24回「私の岩木山」写真展を振り返って

この数年、当会監事として、写真展開催に携わって来ました。今回は作品の内容、特設コーナー等で心に残るものがありました。

2月9日(金)～11日(日)の3日間で、来場者は219名。作品の出展者18名。出品数72点。

会場入り口の森山さんの作品は作者の眼差しを感じる2点です。金枝さんは、住まいする地からの夕景を美しい色彩で季節の移ろいを伝えています。

岩木山登山等を通しての作品は4人からです。斉藤さんは、一般の登山者では歩けないコースを極めています。藤原さんはミチノクコザクラを訪ねて岩木山へ。竹浪さんは1月、厳冬期中腹の山小屋泊で登頂。関心をひいていました。家永さんの「朝焼け」は、10月の白神岳からのもの。尾坂さんは、弘前地域以外からの展望した貴重な作品を5点。会場に入って、突き当たりの正面には、3人の方の大作を展示。小野さんは、三本柳からの「岩木山・春」、中別所からの「岩木山・秋」を。宮本さんは「大秋より岩木山を望む」を。栗形さんは残雪の岩木山を背景に「古民家」を。足を止めてどこからの景色だ?と、来場者の会話がはずんでいました。

佐藤さんは、地元新聞(当会の写真展を報じた)にも掲載されましたが「ど根性アスパラガス」など、身近な視点からの5作品。花田さんは、生活とカメラが切り離せないから生まれた作品と「花」を6点。阿部東さんは、自然への深い造詣、実践家としての思いを「痛恨の『ハ』の字」(長平拡張スキー場)に込めました。阿部玲子さんの「ひきにげされたー!」は岩木山の周回道路での野生動物の轢死体です。

植物について深めている工藤さんは、「花」6点を。中山さんは、「コウノトリ」5点。三和地区砂沢溜池に1993年から3シーズンにわたって飛来した1羽のコウノトリを鮮やかに表現。岩木山麓の自然の姿を知らせています。飛鳥さんはウグイスはじめ7点の作品を。同氏は、NHK弘前支局前の当会の写真展の立て看板を毎年作成しています。

最後になります。当会副会長、竹谷清光さんが今年1月11日、病気のため急逝されました。山仲間の花田一雄さんが「竹谷清光さんを偲ぶコーナー」を展示。笑顔の竹谷さん。大収穫のキノコが、輝いていました。竹谷さんのご家族、十三湖近くの脇本の実家から妹さんらも来場。鑑賞していただき、懇談できました。

当会のこの1年間の6回にわたる講座や活動についても展示。年に一度の写真展を機に、会員、市民の皆様と豊かな交流ができました。ありがとうございました。



藤原 裕貴子 記

岩木山講座⑥「冬の岩木山観察会」に参加

3月18日、まだまだ風の冷たい雪上の観察会に小生も一応主催者側の一員として参加させて頂きました。コースは岳温泉の山手側を時計回りに半周して温泉街へ戻る(つまり一周)というコースで、行動範囲としてはそれほど広大なわけではありませんが雪上を自由に歩けること(カンジキ装着)や積雪休眠期でもそれなりの多彩な意味があることを改めて認識した次第です。(記憶性能のよくない小生の頭脳にとって大いに助けられた藤原裕貴子さんの記録を借用させて頂きながら以下に記述してみます。)

- ・ウサギ、タヌキ、リス等の活発な動きの足跡が見られた。
- ・樹種としてはホオノキ、オニグルミ、ミズナラ、カエデ、ブナ、オオカメノキ、センノキ、トドマツ、ミズキ、ツルマサキ、ヤドリギ等々多彩だった。
- ・ミズナラの樹皮に割れ目が発生しているのは外皮が死んでいて虫が付いてゆく。
- ・温泉の湧き出し場を「湯座(ゆざ)」と称し、この空間は蝶の出会い場ともなる。また鉄の赤サビ色をなしているのは鉄分を食べて赤さびに変えるバクテリアのせいによる。
- ・ウダイカンバ等のカバ類の表皮を薄くはいで火の焼き付けとする。(これは土岐司氏が実演して見せました。)
- ・カエデ類ではハウチワカエデは先端部が赤いので冬期でも分かる。
- ・クリの巨木やツルマサキの解説も印象的でした。
- ・セッケイカワゲラが沢(湯ノ沢)付近で沢山見られた。

(以上の記述は藤原さんからの借用が主体でした。ありがとうございました。)

さて、小生個人の印象としては、

- ・コース設定、解説、自然に対する洞察等、さすが阿部先生多彩で盛りだくさんの観察会であったと思います。
- ・「白神のプロ」の土岐司によるカバ表皮での焼き付け実演、カエデ類の表皮下の当分の味覚テスト、等も印象的でした。
- ・参加者の方々も結構ワクワク感に満ちて参加なされておられるように見受けましたが逆に自分は人を先導、指導することが不向きなのでは?と劣等感を再認識した感もありました…。が、常に全体を後方から見守る精神で総人数は常に把握するように努めました。

齋藤真人 記

嶽温泉の自然観察会に参加して


3月17日、薄曇りの穏やかな土曜日。参加者は18名。昆虫の専門家阿部先生のほか、鳥に詳しい方、植物に詳しい方と一緒に歩く。最初に目の前の木に固まってくっついているヤドリギの説明。この実を好んで食する‘キレンジャク’という鳥が見られるかも、というお話に期待が膨らむ。例年より雪解けが早いとはいうものの登山道入口の神社は鳥居が隠れるほど雪が残っていた。温泉の熱で雪が解けている泥沼のわきを通ったり緩やかな起伏の上をカンジキで歩くのは楽しい。

虫が入り込んでいないか枝を切ってみたり、膨らんできている木の芽を覗き込んでみたりゆっくりと温泉街の裏山を一時間半ほど一回り。葉を落とした木々は樹形と樹皮だけでは何の木か分からないものもあったが、大きなクリの木やナシの木は存在感があった。

最後にこの季節でないとみられない濃いブルーの空のお話。これからは気を付けて空を見ます！キレンジャクに会えなかったのは残念でした。


柴祐子 記

会員継続と平成 30 年度会費納入のお願い

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年度も引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願いいたします。

会費は同封の払い込み用紙または最寄りの幹事を介してお納めください。なお、会費納入状況をお知らせする付箋を同封しておりますので、ご確認ください。(2018.4.8.現在)

幹事募集と幹事会への参加呼びかけ

 岩木山を考える会の企画・運営に参加してくださる方を募集しています。まずは、毎月第一火曜日(5月は第二火曜日)に開催している幹事会に顔を出してみませんか?日頃、岩木山についてお気づきのことや考えていることなど、ざっくばらんにお聞かせください。桜大通り、市民参画センターで午後6時～。

※編集後記

遅々として進まない家作りに妻や子供たちからしょっちゅう「新しい部屋ができたなら〇〇したいな～」とプレッシャーをかけられていましたがようやくなんとか住めるぐらいまで完成させました。それも我が家でちょっとしたイベントを開く予定があったので急ピッチで間に合わせました。これで冬の間作業スペースに住んでいたネコ達も物置にお引越し。部屋が広くなるといいもんですね!とはいえ今度は農作業が遅れ気味になって今てんやわんやです。りんごの生態も例年より早いですね。去年いなくなってしまったニホンミツバチは今年改めて金木の陶芸家さんから分けてもらいました。今度こそはたくさん増やしてりんごを受粉してもらおうぞ。

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第75号(2018年4月27日)発行/岩木山を考える会 会長 小堀英憲 〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15/電話0172-87-1910 事務局長 竹浪 純/電話070-6952-2614 郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会
--